

平成 18 年度 都市景観大賞

「美しいまちなみ賞」

受賞地区概要

都市景観大賞「美しいまちなみ賞」について

良好な都市景観の形成に寄与した優れた景観や空間デザインを表彰することにより、都市景観に対する市民の意識の向上を図るため平成3年度に「都市景観大賞」（主催：「都市景観の日」実行委員会）を設けた。

わが国の良好な都市景観の代表例を集めることを目的として、毎年10地区、平成12年度までに100地区を選定・表彰し、「都市景観100選」として取りまとめた。

平成13年度からは、まちづくり組織(NPO等)と地方公共団体が協働してまちなみの維持・保全等を行っている地区を対象に「美しいまちなみ大賞」（国土交通大臣賞）「美しいまちなみ優秀賞」「美しいまちなみ特別賞」を表彰しており、今年で6年目を迎える。

【対象地区の要件】

良質で優れた都市景観が行政と市民・企業等の連携・協力を通して形成され、そこを舞台として市民活動等が積極的になされている地区を評価の対象とする。単独の建築物、構造物による景観の形成・保全は本賞の対象としない。

【審査と表彰】

都市景観大賞「美しいまちなみ賞」審査委員会において、応募図書等をもとに、まちなみの整備や維持、保全に関する活動の新しさ、独創性、模範性などのほか、地域再生、都市再生や観光交流面でのアピール性等を審査した上で、各賞を選定する。

美しいまちなみ大賞（国土交通大臣賞）・・・概ね1～2地区
美しいまちなみ優秀賞・・・概ね8～9地区
美しいまちなみ特別賞・・・内容に応じ、適宜選定

《都市景観大賞「美しいまちなみ賞」審査委員会 委員名簿》

委員長	中村 良夫	東京工業大学 名誉教授
委員	岩淵 潤子	慶応義塾大学 教授
	卯月 盛夫	早稲田大学芸術学校 教授
	加藤 源	都市プランナー
	岸井 隆幸	日本大学 教授
	輿水 肇	明治大学 教授
	田中 一雄	環境・工業デザイナー
	富田 泰行	照明デザイナー
	富田 玲子	建築家
	松葉 一清	建築評論家
	山崎 篤男	国土交通省 都市・地域整備局 都市計画課長
	竹内 直文	国土交通省 都市・地域整備局 市街地整備課長
	井上 俊之	国土交通省 住宅局 市街地建築課長

(順不同、敬称略)

平成 18 年度 都市景観大賞「美しいまちなみ賞」 受賞地区一覧

「美しいまちなみ大賞」

地区名	応募者
近江八幡市北之庄町周辺地区 <small>きたのしょう</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・北之庄沢を守る会 ・近江八幡市
雲仙市神代小路地区 <small>こうじろくうじ</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・神代小路まちなみ保存会 ・神代小路区 ・雲仙市 ・神代鍋島塾

「美しいまちなみ優秀賞」

地区名	応募者
黒石市こみせ通り地区	<ul style="list-style-type: none"> ・津軽こみせ株式会社 ・黒石市
香取市佐原地区 <small>さわら</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人小野川と佐原の町並みを考える会 ・香取市
国立市大学通り沿道地区	<ul style="list-style-type: none"> ・大学通り学園・住宅地区景観形成協議会 ・国立市 ・国立駅前大学通り商店会
彦根市本町地区 <small>ほんまち</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・彦根市本町地区共同整備事業組合 ・彦根市
津和野町環境保全地区	<ul style="list-style-type: none"> ・津和野町まちづくり検討委員会 ・津和野町
福岡市アイランドシティ照葉の まち地区 <small>てりは</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・照葉まちづくり協会(TCA) ・福岡市 ・福岡市住宅供給公社 ・博多港開発株式会社 ・アイランドシティ住宅開発企業連合体

「美しいまちなみ特別賞」

地区名	応募者
尼崎市武庫之荘4丁目地区 <small>むくのそう</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・武庫之荘4丁目地区まちづくり協議会 ・尼崎市

審査総評

いずれも秀作ぞろいで充実していたと思う。

なかでも、雲仙市の神代小路と近江八幡はとくに際立っていた。両者に共通するのは、かならずしも観光ねらいではなく、生活環境の改善による市民の誇りが強く感じられる点である。過去の秀作にも共通した原理だと思う。

今回にかぎらず全体をながめて気になるのは、伝建地区など古い町並み景観の圧倒的な力であり、反対に新しい町並みの秀作が乏しいことである。当然といえばそれまでだが、わが国のように古い町並みの少ない国では、新しい町並み、あるいは散発的に古い建造物を取りこんだ新しい町並みの再編集などの秀作をもっと期待したい。

彦根本町地区は、この点で興味深く、デザインについての評価は分かれるところがあったが、住民主導の区画整理とタウンマネジメントに感銘を受けた。

「美しいまちなみ大賞」受賞地区の概要

近江八幡市^{きたのしょう}北之庄町周辺地区

地区面積：325ha

応募者：北之庄沢を守る会、近江八幡市

地区概要：

当地区は、近江八幡市の北東部に位置し、古くから琵琶湖に繋がる水郷地帯である。また景観法に基づき国初の景観計画区域であるとともに、文化財保護法に基づく国内初の重要文化的景観に選定された「近江八幡の水郷」に位置し、良好な自然景観、農村景観、市街地景観が調和した地区である。

北之庄沢のヘドロ・ゴミ対策として行政による浚渫工事が完了した後、周辺住民主体の「北之庄沢を守る会」による清掃・水質保全、ヨシ群の維持、景観啓発活動が定期的実施されており、これによって北之庄沢をはじめ下流の八幡堀等の水辺景観が美しく保たれている。

北之庄沢や八幡堀などの資源を舞台に市民協働で開催される地域交流イベント（親子釣り大会、ニゴロブナの稚魚放流、コンサート等）のほか、和舟観光「水郷めぐり」や伝統的町並みに多くの観光客が来訪している。また映画やテレビのロケーションの舞台にも多用され、地域活性化の一翼を担っている。



ヨシ原の広がる北之庄沢を中心とする水郷景観。近隣の集落は景観計画に基づく規制を遵守し、背後の里山と相まってわが国の代表的なふるさと景観を維持している。



八幡堀を含めた周辺の河川域では、和舟観光「水郷めぐり」のほか「宵すずみコンサート」等の催しを実施し、市内外から多くの人が訪れる。



八幡堀を含めた河川域では、地域住民による清掃活動が定期的実施されている。



八幡堀周辺の伝統的建造物群保存地区では、古くからの町並みが残り、風情豊かな景観を形成している。

雲仙市こうじろくわじ神代小路地区

地区面積：9.8ha

応募者：神代小路まちなみ保存会、神代小路区、雲仙市、神代鍋島塾

地区概要：

当地区は、雲仙市の北部（旧国見町）島原鉄道神代駅付近に位置する。神代鍋島藩の武家屋敷建築と明治期以降の近代和風建築の建造物群が石垣、生垣、樹木等とともに情緒豊かな町並み景観を形成しており、平成17年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

街路事業において、沿道の舗装改修に伴い縁石を自然石化し、電柱を移設、景観配慮の街灯設置等を実現した。城址膝下の護岸工事においては自然石を用いて修景化している。

建物の老朽化と居住者の高齢化による伝統的町並みの喪失化に危機感を覚えた地元有志が平成11年に「神代小路まちなみ保存会」を設立し、疎水清掃、生垣剪定、緋寒桜の苗木移植等の活動を定期的に行っている。



地区全景。当該地区は、周囲を神代城址と堀を兼ねた河川で囲まれ、武家地の名残を有する落ち着いたまちなみ景観が広がる。



屋根を取り巻く緑豊かな生垣と樹木が、石垣、水路の工作物とあいまって美しい景観を醸し出している。道路縁石に自然石を使用。また景観に調和した街灯を設置している。



電柱が移設された通りには、商業看板、自動販売機等もなく、情緒ある景観が蘇った。



茅葺きの武家屋敷（永松邸）は、伝統的建造物に指定され、一般に公開されている。水路の清掃は住民の当番で実施されている。

「美しいまちなみ優秀賞」受賞地区の概要

黒石市こみせ通り地区

地区面積：3.1ha

応募者：津軽こみせ株式会社、黒石市

地区概要：当地区は、黒石市の中心市街地に位置し、江戸時代初期の町割りを残している。国の重要文化財の「高橋家住宅」をはじめ、造り酒屋、住家などの「こみせ」が連なる町並みを形成している。

平成16年に黒石市歴史的景観保存条例を制定し、また平成17年に国による重要伝統的建造物群保存地区に選定され、町並みの保存・修理・修景活動を展開している。

市が「かくじ広場」を整備した際に、既存の「こみせ」の町並みとの調和を図るため、広場の周りに新たな「こみせ」を設置した。

平成12年に「津軽こみせ株式会社」(TMO)が設立され、地元物産の販売、津軽三味線の生演奏・土蔵を借りてのライブハウス等の運営のほか、イベント広場や親水空間整備などを実施している。



こみせ通り。



市が整備したかくじ広場。既存の「こみせ」と調和した一体的な町並み景観を形成。



市民による観光ボランティアガイドが「こみせ」を案内する。

香取市^{さわら}佐原地区

地区面積：18.5ha

応募者：特定非営利活動法人小野川と佐原の町並みを考える会、香取市

地区概要：当地区は、小野川と香取街道沿い及び下新町通りに位置し、江戸時代から昭和初期にかけて利根川舟運で栄えた旧市街地であり、木造や蔵造りの店舗・住宅等の歴史的建造物が集中している。

平成5年に特定非営利活動法人「小野川と佐原の町並みを考える会」が「佐原地区町並み形成基本計画」を市に提案。これを受け市は平成6年に佐原市歴史的景観条例を制定し、市単費による建物の修理・修景事業を開始。平成8年に地区の中心部が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。平成17年度より国土交通省の街なみ環境整備事業により、電線の地中化やポケットパークの設置など各種事業を計画実施している。

市民協働による「町並み講演会」「小野川清掃」「防災訓練」「建物公開事業」など多彩なイベントを実施。「考える会」は観光案内所の運営や町並み案内ボランティア等を実施し、観光客は年々増加している。



ゆったり蛇行して流れる小野川沿いの景観。観光客は遊覧船や川沿いの散策を楽しめる。



小野川沿いでは電線の地中化を進めており、すっきりとした景観を形成している。



明治、大正、昭和と多様な時代及び意匠の建物が建ち並ぶ樋橋周辺には大勢の観光客が訪れる。

国立市大学通り沿道地区

地区面積：1.2ha

応募者：大学通り学園・住宅地区景観形成協議会、国立市、国立駅前大学通り商店会

地区概要：当地区は、国立駅前の大学通り（W=44m）沿道に位置する。

大学通りは、「新東京百景」や「環境色彩10選」、「新・東京街路樹10景」、「新・日本街路樹100景」等に選定されており、桜の木（約200本）、いちょうの木（約120本）が繁っている。

平成10年の都市景観形成条例制定を機に、住民の参画により景観形成のための方針と基準を策定し、建物・工作物に対する届出制度による景観づくり（地域住民の協力による）を実施している。

市民協働による緑地帯の保全活動をはじめ、市民祭や年末のイルミネーションなど、多彩なイベント活動を実施し、住民や訪れる人々を楽しませている。



大学通りでは、昭和9年に現天皇の誕生を記念して市民により植えられた桜並木が一斉に開花する。正面が国立駅。



大学通りの両側には一橋大学が位置し、国の登録有形文化財である兼松講堂をはじめ歴史的な建造物が存在する。



平成2年から毎年クリスマスシーズンに国立駅前大学通り商店会によるイルミネーションが飾られ風物詩となっている。

彦根市本町地区

地区面積：1.33ha

応募者：彦根市本町地区共同整備事業組合、彦根市

地区概要：当地区は、彦根城や夢京橋キャスルロード地区（平成14年度都市景観大賞「優秀賞」受賞）に隣接する「街なか再生土地区画整理事業」区域に位置する。

区画整理組合の設立を機に、本町地区共同整備事業組合を結成し、「福祉のあるまちづくり基準」や「建築・景観ルールブック」を策定。マスターアーキテクトによる緩やかな統一を目指した景観調整を行い、「大正ロマン」をコンセプトとする町並み形成を実現している。

「まちづくり総合支援事業」により電線の地中化、照明灯、舗装等の修景が行われている。

共同整備事業組合が「賑わい創出委員会」「まちづくり協定委員会」「はいから倶楽部」を組織化し、花いっぱい運動など景観の形成に向けた自主的な活動を展開している。



地域交流センター（ひこね街なかプラザ）は、地域の伝統的食文化の継承・普及を目的とした料理教室や地域関連団体の活動の場などに利用されている。



町並み景観は、「大正ロマン」をコンセプトとして緩やかな統一が図られている。



賑わいの創出を目的に、区画整理事業の換地計画で幅3mの路地空間を確保。両側に店舗が向かい合うように誘導している。

津和野町環境保全地区

地区面積：2,300ha

応募者：津和野町まちづくり検討委員会、津和野町

地区概要：当地区は、津和野町の中心市街地を形成し、武家屋敷跡や鯉が群がる掘割などをはじめとする歴史的・文化的景観を有している。対象地区の一部（後田地区）は平成6年度都市景観100選“大賞”を受賞。

昭和48年に環境保全条例を制定し、歴史的・文化的建造物や歴史ある町並みの保全に古くから取り組んでいる。

平成10年に「津和野町まちづくり検討委員会」を設置し、同委員会での検討のもとに、河川改修・護岸整備による河川景観形成、電線類地中化、石畳舗装整備などによる歴史的町並み景観の維持・形成に取り組んでいる。



津和野城跡、津和野川、背後の山並みに石州瓦の家々が調和し、昔ながらの風情を感じる美しい景観を形成している。



津和野川に周囲の造形になじみやすい風情のある護岸整備を行い、魅力ある河川景観を形成している。



殿町通りは石畳舗装を施し、沿道に並ぶ武家屋敷跡の白壁とマッチして歴史的風情を感じる景観を形成している。

福岡市アイランドシティ^{てりは}照葉のまち地区

地区面積：18.5ha

応募者：照葉まちづくり協会(TCA)、福岡市、福岡市住宅供給公社、博多港開発株式会社、アイランドシティ住宅開発企業連合体

地区概要：当地区は、博多湾の埋立地「アイランドシティ」における初期の住宅開発地である。

「照葉の森公園」をはじめとした豊かな緑と、自然石の石積みと生垣で統一された住宅地、緩やかなカーブを描く歩行者空間、電線類の地中化、石畳みの広場を囲むように配置された戸建住宅など、緑豊かでゆとりと統一感のある街並みを形成している。

地区計画、建築協定、緑地協定を締結し、また福岡市と住民間で公園等の管理について管理協定を締結している。住民主体の組織「照葉のまちづくり協会(TCA)」を設立し、官民共同で街並みや住環境の維持・保全に取り組んでいる。



南側より順に緑地、戸建住宅、低層集合住宅、中高層住宅が配置され、美しいスカイラインを形成している。



区画道路内の緑地帯と宅地内の植栽により緑豊かな沿道景観を形成している。



幹線道路には緑豊かな広幅員の歩道が設置され、沿道宅地の緑とあいまって、季節感豊かな歩行者空間となっている。

「美しいまちなみ特別賞」受賞地区の概要

尼崎市武庫之荘4丁目地区

地区面積：7.7ha

応募者：武庫之荘4丁目地区まちづくり協議会、尼崎市

地区概要：当地区は、阪急電鉄神戸線の武庫之荘駅北部に位置し、昭和16年に阪急電鉄により、郊外田園住宅地として開発された。戸建住宅が大半を占める。

阪神・淡路大震災で住宅の多くが全半壊し、敷地の細分化、空地化、旗竿敷地の増加等により、地区の良好な景観要素であった緑や勾配屋根の家屋の減少、青空駐車場の増加が顕著化した。

このため平成15年に「武庫之荘4丁目まちづくり協議会」を結成し、平成17年に地区の土地利用・景観の悪化をくい止めるルールづくり（地区計画案）を市へ提出。同年地区計画を都市計画決定。平成18年4月に地区の建築条例を公布し、町並みの保全に取り組んでいる。

私有地無償提供による陶芸展、寄せ植え教室などの自主的な景観イベント活動を展開している。



コミュニティ道路と柳の街路樹がつくる水路沿いの景観は地区のシンボル空間となっている。



開発当初からの橋が区画道路ごとにある、地区を特徴づける重要な景観要素の一つとなっている。



生垣が連なり、潤いのある整った町並み景観を形成している。